

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和2年度第8回 理事会議事録

令和2年10月8日（木）20:00～22:00

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、高相晶士、田中信弘、筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【出席したオブザーバー】大和 雄（第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局長）、今釜史郎（脊髄モニタリングWG委員長）

【議事の経過の要領及びその結果】

松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

※ 会議はweb会議で行われた。

1. 理事長挨拶・第49回学術集会報告

松山理事長から、9月に開催された第49回学術集会について感謝の言葉があり、続いて大和事務局長が、参加者数や演題数などを報告した。また仮決算ではあるが、900万円ほど残余金が出る予定であると説明した。

I 審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

前回議事録について一同承認、修正等ある場合は渡辺理事へ一報することになった。

2. JSSR脊髄モニタリング認定医制度の制定について

今釜委員長が、脊髄モニタリング認定医の規程および日本臨床神経生理学会（以下、JSCN）の資格と比較した基準を提示し、内容を説明した。以下の点について理事会の意見を求めた。

①すでにJSCNでモニタリングの認定資格を持っている場合は、講義を免除する⇒承認された。

②認定されるまでにかかる費用は、申請料1万円と認定料1万円で行うか⇒モニタリング認定医用に新たに創設することになった「研修コースⅣ」では受講料1.8万円（当日の場合は2万円）、受験料1万円、登録料1万円としたので、それに合わせることで承認された。

③今まで無償で行ってきた例年秋から冬に行っているモニタリングハンズオンについては、資格認定が始まると申請が殺到する恐れもあり受講料を設けたい。⇒各ハンズオン担当の病院では料金を徴収することはできないため、学会での徴収を予定することになった。

④ハンズオンを担当した講師へは謝金を出せるか⇒謝金を出すことで一同承認した。その金額については研修コースの講師料を確認のうえ決定することになった。

⑤モニタリングの資格を得るうえで単位を出す制度を設けてよいか⇒日整会のSSのような制度がないことから、指導医更新時の医療安全倫理講習1単位のように、学術集会中に定例で講習を行うようにし、5年間の認定

期間中に1回その講習を受ければよいことで承認された。

⑥モニタリング認定医についての告知はホームページ上で行う⇒承認された。

⑦提案した規定は2020年11月1日から施行する⇒料金部分等を修正完了し、承認予定。

3. 定款等検討委員会より評議員選考応募要項、評議員選出規定の改定について

前回提案された修正点（JSSR での受賞例に ATF を加えること）を盛り込んだ評議員選考応募要項が承認された。また、前回承認された評議員定員の増加と女性評議員の件について、それらを盛り込んだ評議員選出規定が提出された。その際、推薦評議員、女性評議員に関しては、最終的には評議員選考委員会で承認した方が良いのではないかと意見が出され、定款等検討委員会へ持ち帰り検討のうえ次回理事会にて最終決定することになった。

4. 学術集会プログラム等検討委員会より第 50 回 JSSR 学術集会の会費値上げについて

根尾理事が、第 50 回学術集会については京都の会場費が 47 回-神戸や 48 回-横浜に比べても高額で、さらにハイブリッド開催の対応をしようとする、参加費の値上げを検討せざるを得ないとして、各回の収支を明記した一覧表と、提案する改訂後の参加費の金額を示した。

49 回-神戸では付帯行事は新型コロナウイルス予防のため実施しないものが多かったが、50 回では会員懇親会なども開催できるかもしれない、その分の費用も掛かる可能性がある。

会員（事前～当日）：20,000 円

会員（事後：オンデマンド）：23,000 円

非会員（事前～当日）：21,000 円

非会員（事後：オンデマンド）：24,000 円

以上の料金設定について、事前～当日に申し込んだ 2 万円の参加者は当日参加・LIVE での参加・オンデマンド、すべて可能である。オンデマンドのみの参加費を通常の参加者より高く設定したのは、できるだけ現地に来てもらうか当日参加してもらえようようにしたいためであることの説明がなされ、一同了承した。

5. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（9 月分）

9月の入退会について全員を承認した。

6. JSR 編集委員会より JSR 関連学会分担金について

長谷川理事が、JSR の関連学会の分担金は 150 万円/年であるが、今年はコロナ禍の影響などもあり、各関連学会の財政も苦しく、また JSR が電子化したことによる経費減などもあるので、負担を軽減してほしいとの要望が出ていると報告した。

ただ、JSR 電子化も初年度であり、一方で紙媒体発刊時には収入としてあった 1000 万円以上の広告費がなくなっていることもあるので、今年の JSSR の決算状況を確認してから結論を出すことに一同賛同した。

7. 社会保険システム等委員会から PPS について、BKP の適応拡大について

前回理事会で骨移植を併用しない場合の PPS について、診療報酬点数の引き下げを提案することについて議論がなされた。他学会の社保委員会とも本件について相談したところ、放射線被曝もあることから、引き下げについては否定的な意見が多かったとして、本件はまずは日整会と足並みをそろえて 2024 年の改定に向けて検討することとなった。

また BKP の適応拡大（後壁損傷、受傷後早期例、多椎間例、等）について委員会で議論になったが、新技術評価委員会等での検討を依頼することとなった。

8. 国際委員会より SAS2021 の開催について

SAS2021 について、コロナ禍のため 1 年延期したい旨、国際委員会から NASS へ申し入れを行うことを承認した。

9. 教育研修委員会から次年度の開催概要について

第 50 回学術集会時から新設される研修コースⅣ（モニタリングコース）の料金について

受講料 ¥18,000 (オンライン登録) ¥20,000 (当日登録)

受験料 ¥10,000

登録料 ¥10,000

とすることを承認した。

また、コロナ禍によるソーシャルディスタンスの制限により収容人数が 50%とされた場合を想定し、根尾第 50 回学術集会会長が、そのような場合でも実施できるよう広い会場を確保する努力をすることとなった。

10. 第 50 回および 51 回以後の参加登録システムについて

事務局の鈴木が、49 回学術集会から導入された学術集会参加登録システムに、コングレから依頼された機能を追加し、さらに非会員用のサイトも立ち上げた場合の見積を提示した。51 回からは 50 回で要する開発費がなくなるとして、以降の見積も提示した。

また、50 回では学会終了時に参加登録システムをクローズする予定だったので、「オンデマンドのみの参加者のための申請延長」期間のランニングコストおよびその方々に対応するための諸開発費は含まれていないと発言した。一同検討の結果、見積と 50 回以降も参加登録システムを使うことは承認した。

50 回学術集会および JSSR 事務局、コングレで相談し、オンデマンドのみの参加者への対応について検討の結果、事務局から追加見積が必要になるようであれば、開発期間が短いこともあり、E メール理事会にて審議の予定となった。

3. 審議・報告事項

1. 広報委員会報告

関連学会の学術集会について日程、場所、URL等が掲載されているようなページをJSSRのホームページ内に設け、申請があり審査を通った場合は掲載していくことが承認された。審査は広報委員会で行い、判断がつかない場合は理事会で審議することになった。

2. 指導医制度委員会報告

指導医のイブニングセミナーや教育研修コースの受講歴について、第49回学術集会からはマイページ内でも確認できるようになったため、第50回以降は紙で証明を渡すことは取りやめることになったと報告された。

3. JSR 編集委員会報告

JSR8号にて掲載予定の画像に患者氏名と思われる情報が記載されていたが、直前に削除できた件で、今後は四重にチェック体制を整えて臨むことが報告された。

12-1.2号は投稿論文が少ないこともあり合併号として出版を予定すること、今後の投稿を促すために49回学術集会の抄録 score トップ 200名(通常は100名)に依頼を出したこと、コロナ禍のため春・秋とも中止となった西日本脊椎研究会の特集号(12-12号)についても論文の本数にかかわらず発刊する予定であることが報告された。

また、JSR 7号・8号のニューズレター配信後の追跡結果が資料として提示された。

4. 社会保険システム等委員会報告

頸椎椎弓形成の術式について、以前の計算方式だと頸・胸・腰がすべて同料金となっていたが、委員会にて新たに算定しなおしたところ、それぞれが納得のいく別の料金になったことが報告された。

また、高度脊柱変形について、多椎間の後側弯症は、側弯症手術とすること、立位全身骨撮影(EOS)は要望が通りにくい継続要望していくこと、筋肉量測定は測定機器に筋肉量測定の医療機器としての適応がないため、筋肉量測定の適応拡大のち新規要望予定であることなどが報告された。

5. 国際委員会報告

OPLL 3rd Editionの海外発送については残り3名の住所が確認できれば発送可能であること、APSS 2020 上海はキャンセルとなったこと、APSS-APPOS 2021は2021年6月9日から神戸でハイブリッド開催となる予定であることが報告された。

6. 安全医療推進委員会報告

川口評議員（富山大学）が行ったレベルエラー研究のプレゼンテーションについては、いくつかの問題を再検討のうえ、JSSR 倫理委員会へ申請予定となったことが報告された。

抗凝固薬内服と硬膜外血腫リスクについて JOA 安全推進委員会委員でもある酒井紀典評議員（徳島大学）とも検討し、JOA と足並みを合わせてアンケート調査を行う方向で進める予定であること、本件についてはホームページやニュースレターで会員に注意喚起の提言を行うことが報告された。

7. 専門医制度委員会報告

専門医機構の方針で、サブスペシャリティ領域連絡協議会とサブスペシャリティ領域専門医検討委員会という 2 つの組織が新設されることになったことが報告された。

それによると、当学会（基本領域：整形外科＝JOA）と NSJ（基本領域：脳神経外科＝JNS）が共同認定している「脊椎脊髄外科専門医」に関しての連絡協議会は、機構が定める「カテゴリーA（ある基本領域専門医の占める割合が 70%以上）」に該当し、整形外科内に連絡協議会を設けることになる。これについて NSJ 側と話し合い、JOA 内に連絡協議会を置くことを承認してもらった。JSSR・NSJ 双方からも担当者が任命されることになり、整形外科側は波呂副理事長が、脳神経外科側は中瀬裕之先生（奈良県立医科大）が選出された。脊椎脊髄外科専門医の更新については、JSSR 側は指導医を更新しておけば問題ないようにする予定であることが説明された。

8. マイページ上での学会参加履歴と単位履歴登録完了の報告

マイページ上に 49 回学会参加履歴と指導医イブニングセミナーの医療安全単位の履歴について、登録が完了したことが報告された。

9. その他の委員会報告

データベース委員会

JOAのデータベースシステムであるJOANRの二階にのるデータベースの構築を予定しているが、JOANRのほうで別途検討事項等があり二階建てについての対応が遅延しそうであることが報告された。

プロジェクト委員会

いくつかのプロジェクトがそれぞれの担当者を中心に進行中であることが報告された。

以上

令和 2 年 10 月 8 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭